

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計			
法文学部	法経学科	夜・通信	70	0	63	133	13		
	社会文化学科	夜・通信			74	144	13		
	言語文化学科	夜・通信			60	130	13		
教育学部	学校教育課程	夜・通信		0	309	379	13		
人間科学部	人間科学科	夜・通信		12	96	178	13		
医学部	医学科	夜・通信		0	30.2 ※	100.2	19		
	看護学科	夜・通信			132	202	13		
総合理工学部	物理工学科	夜・通信		3		30	103	13	
	物質化学科	夜・通信			30	103	13		
	地球科学科	夜・通信	30		103	13			
	数理科学科	夜・通信	30		103	13			
	知能情報デザイン学科	夜・通信	30		103	13			
	機械・電気電子工学科	夜・通信	30		103	13			
	建築デザイン学科	夜・通信	45		118	13			
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	夜・通信	0	40	110	13			

生物資源科学部	生命科学科	夜・通信	8	15	93	13	
	農林生産学科	夜・通信		37	115	13	
	環境共生科学科	夜・通信		15	93	13	
(備考) ※医学部医学科の授業時間数は 5899 時間							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表を本学 HP に公表し、以下より授業内容を参照可能とする。

https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/lectures_data/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/university_profile/trustee/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	前国立大学法人帯広畜産 大学 帯広畜産大学副学 長（兼）事務局長	2022.4.1～ 2024.3.31	大学経営・財務担当 事務局長
非常勤	株式会社ミック 代表取締役社長	2021.4.1～ 2024.3.31	法人経営
非常勤	株式会社プロテリアル 特殊鋼事業部 技術部 部長	2021.4.1～ 2024.3.31	法人経営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学の授業シラバスについて、毎年2月から3月中旬の間で、担当教員が作成し、3月中旬以降公表している。なお、開講授業についてはウェブシラバスとして、大学内外から閲覧可能である。その項目については、授業の目標や計画、成績評価方法を含め、学生が準備学修を進めるために必要な項目が設定されている。</p> <p>また、シラバスの作成にあたっては、次年度のシラバス登録開始前に「学生の学びの質を高めるために一シラバスから始まる授業改善」を参照し作成するように全教員周知し、シラバスの各項目についてどのような記述をすべきか、FDの観点から指導を行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/lectures_data/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学の試験等の成績評価は、学則において、「成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格とする」旨定め、その基準については、成績の評価に関する取扱要項において規定している。これらの基準に則り、平常成績及び修学状況等を考慮して成績評価を実施している。成績評価は100点満点法であり、成績を秀(90～100点)優(80～89点)良(70～79点)可(60～69点)不可(59点以下)の5段階に区分し、秀、優、良及び可を合格として単位を認定している。これら成績評価の区分・単位の認定基準については、各学部の「履修の手引き」に記し、学生に周知している。</p> <p>また、各授業における成績評価の方法及び基準については、授業科目の担当者がシラバスに明記し、初回授業時に評価基準を周知するなどしている。成績評価方法については、期末試験やレポート、プレゼンテーション、ルーブリック評価などを用い、授業の達成目標に対する学生の達成度を適切に測定できる措置を講じるよう、教員向けの文書等で促すとともに、FD研修会等においても教員は研鑽を積んでいる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学務情報システムのデータを利用し、成績の分布状況の把握をはじめ、修学指導に係る分析を行っている。また、学生が学修状況をより客観的に把握し、教員が学修指導をよりきめ細やかに行うためGPA制度を導入しており、学生及び指導教員は学務情報システムにアクセスすることによりGPAが確認できます。履修登録した科目毎の5段階評価を、(秀=4・優=3・良=2・可=1・不可=0)の4から0までの点数(GP: Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を評価を受けた単位数の合計で割った平均点をGPAとしている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>https://www.shimane-u.ac.jp/intra/eduinfosys/eduinfosys_student.html</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業については、島根大学学則において在学すべき年数以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し修了した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する旨を定めている。</p> <p>学位授与方針で定める能力・資質については、教育課程の編成方針に反映され、カリキュラムとして体现されている。カリキュラムを通じた学習成果である卒業の認定について、その基準については、各学部規則に規定し、学生に基準を記載した「履修の手引」を配布するとともに、オリエンテーションや窓口等での学生相談などの場で成績評価及び卒業認定の基準に関する説明を行っている。各学部で所定の教育課程を履修（修了）した者に対しては、単位認定・卒業認定のための卒業認定会議及び教授会を開催し、その議を経て学長が卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」参照</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
財産目録	
事業報告書	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
監事による監査報告(書)	https://www.shimane-u.ac.jp/_files/00277716/kanjikansahokokushoR03.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 島根大学ビジョン2021 対象年度: 2023)
公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/newvision2021/
中長期計画(名称: 中期目標・中期計画 対象年度: 2022~2027)
公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/target/
中長期計画(名称: 島根大学ビジョン2021 対象年度: 2021~2026)
公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/newvision2021/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/self_check/self_check/index.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/self_check/evaluation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hobun.shimane-u.ac.jp/gakubu_syoukai/ ）
<p>（概要）</p> <p>法文学部では、次の 4 項目を教育・研究の目標として掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先端的研究および学際的総合的研究の推進 2. 創造的・実践的能力を有する人の育成 3. 地域社会との連携の強化 4. 国際的に開かれた学部
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/law_lit.html ）
<p>（概要）</p> <p>学科毎にディプロマ・ポリシーを定め、大学のホームページ及び学生に配付する『履修の手引』において公開している。</p> <p>各学科の学士課程においてディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた者には、次の学位を授与する。</p> <p>法経学科：学位「法経」 社会文化学科：学位「社会科学」 言語文化学科：学位「文学」</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/law_lit.html https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/curriculum/ ）
<p>（概要）</p> <p>学科毎にカリキュラム・ポリシーを定め、大学のホームページ及び学生に配付する『履修の手引』において公開している。</p> <p>更に、コース又は研究室毎にカリキュラム・ツリーを作成・公開し、入学から卒業（ディプロマ・ポリシーの達成）までの履修について、体系的に明示している。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/law_lit.html ）
<p>（概要）</p> <p>学科毎に求める学生像，入学者選抜の基本方針，各選抜方法における求める力（評価する力）をアドミッション・ポリシーとして定め、大学のホームページ及び入試要項等において公表している。</p>

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/edu_menu/edu_menu01.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-1_rinen/ ）
<p>（概要）</p> <p>21 世紀の教育改革をリードする山陰地区唯一の教員養成専門学部です。</p> <p>現代的教育課題や、今後の地域の少子化傾向などに対応し、「小中免許併有」を目指す“これからの時代に必要とされる教師”を育てます。また、1000時間体験学修等の独自の教師教育プログラムにより、教職への限りない情熱と様々な教育的課題に対応できる優れた教育実践力を備えた教員の養成を目指しています。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/kyouikugakubu.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-1_rinen/)</p>
<p>(概要) 基準となる単位数を修得し所定の体験時間数を経験することで、次の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し卒業を認定し学位（学士（教育学））を授与します。 《普遍的教養》の分野 《教育実践力》の分野（学習者を理解し、身につけた知識や技能で教育を実践する力） 《対人関係力》の分野（相手や目的に応じて適切なコミュニケーションを行う力） 《自己深化力》の分野（必要な情報をさまざまな方法で探したり発信したりして、自己の知識や能力を深める力）</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/kyouikugakubu.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-1_rinen/ https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-2_gakubu_curriculum/)</p>
<p>(概要) 1・2年次では「基礎科目」, 「教養育成科目」, 及び「専門共通科目」を中心に学びながら、幅広い視野・基礎的知識・技能など、豊かな教養を身につけます。3年次以降は、「専門教育科目」を中心に各自の主専攻・副専攻に応じて専門的に学び、4年次にはそれらの学修の成果を踏まえて「卒業研究」に取り組みます。また、4年間を通じて充実した「1000時間体験学修」を並行して行い、実践的な力を養います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/kyouikugakubu.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-1_rinen/)</p>
<p>(概要) 特色ある教育課程のもとで教師になることを希望する次のような学生を受け入れます。 高等学校までの基礎学力を備えており、向上心をもって主体的に学ぼうとする人 豊かな人間性、子どもに対する愛情、教育的情熱を有する人 教師に要求される幅広い教養と深い専門的知識・技能を身につけ、社会の発展に貢献しようとする人</p>

<p>学部等名 人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/ningen/hu_menu01.html?node_id=25021)</p>
<p>(概要) 1. 人間の特性を深く理解し、人々がその人らしく生きることができる社会を構築していく人材の育成 2. 人間に関する多角的・学際的な研究の推進 3. 地域貢献の推進 4. 世界に開かれた教育・研究</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/ningenkagakubu.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、下記の力を身につけていることをもって卒業を認定している。 1. 人間に対する共感的・客観的理解に基づき、他者と共同して人々を支援する地域実践力を身につけている。 2. 人間の心理的側面、身体的側面、社会的側面について幅広い専門的知識を身につけ、人間を多角的にとらえることができる。 3. 他者の知見を客観的に検討し、自己の知見を他者に対して論理的に表現することができる。</p>

4. 持続的な関心を持って、人間のかかえる様々な問題に主体的に関与していこうとする態度を身につけている。
5. 人間がかかえる諸問題を的確に分析する力を身につけている。
6. 人間がかかえる諸問題の解決法を構想し、それを実践する力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/ningenkagakubu.html）

（概要）

卒業認定に関する方針に基づき、教育課程の編成及び実施の方針を以下のように定める。

1. 市民としての基礎的な教養を身につけるために、全学共通教育科目を設定する。
2. 初年次教育では、学生の主体的なコース選択とキャリア形成を支援するため、「人間科学入門セミナー」「人間科学概論」において各コースにおける4年間の学びと卒後のキャリアについて学ぶ。また「人間科学入門セミナー」で、全てのディプロマポリシーにかかわる研究、プレゼンテーション、コミュニケーションの基礎教育を行う。
3. 地域において人々が抱える問題に対して、持続的な関心を持って、主体的に関与するとともに、その解決法を構想する地域実践力を育成するため、初年次から卒業年次まで、学部共通の地域実践基盤科目、及び各コースの特性に応じた地域実践展開科目を設ける。
4. 様々な人々と共同で問題解決にあたる実践力を育成するため、コースを越えて知見を交換し合う「インタラクティブ・プレゼンテーション・ミーティング」を「学習実践活動」として必修とし、専門を異にする人々ともコミュニケーションがとれるようにする。
5. 人間を心理的-身体的-社会的側面をあわせ持つ存在として多角的にとらえることを可能にするため、本学部における学びの基礎となる「人間科学概論」や「地域包括ケア概論」を必修とするとともに、学部共通科目として、本学部の柱となる心理学、社会福祉学、健康科学の基礎を学ぶ共通基盤科目群を設定する。さらに、地域社会の問題を見る目を養う地域社会科目群、人間をより幅広くとらえる視点を養う人間理解科目群を他学部と連携して設定する。
6. 人間を共感的・客観的に理解し、人々と共感的・論理的にコミュニケーションをとることができるようにするため、コース専門科目において、対人関係スキルを育成する授業科目を配置する。
7. 地域実践基盤・地域実践展開科目において得た知見を確かなものとするために、コース専門科目を地域実践基盤・地域実践展開科目と有機的に関連させ、地域実践における気づきを一般化し、理論による体系化ができるようにするとともに、問題を発見し分析する力が身につくようにする。
8. 科学的思考に基づくリサーチ力（自己や他者の知見を批判的に検討する力、仮説検証的に考察する力、エビデンスに基づいて考える力）を身につけるため、「人間科学研究法」でその基礎を養うほか、各コースにリサーチ力育成の授業を配置する。
9. 4年次に卒業研究を課し、4年間の学びの集大成を行うようにする。
10. 所定の科目を履修すれば、社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格が得られるようにする。また、大学院に進学し臨床心理士受験資格、公認心理師受験資格を得られるに足る学部教育が受けられるようにする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/ningenkagakubu.html）

（概要）

本学部の求める学生像は以下の通りである。

1. 大学で学ぶ上で必要となる、高等学校段階までの基礎的な学力を十分に身につけている人
2. 人間に対して積極的な関心を持ち、多角的な人間理解の必要性を感じている人
3. 人間が抱える問題の多様な現実を知り、その解決策を模索していこうとする意欲をもつ人
4. 地域社会に対して積極的な関心を持ち、他者と協働しながら、地域社会が抱える問題の解決に主体的に取り組もうとする姿勢をもつ人

学部等名 医学部医学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/med_menu/med_menu100.html）

（概要）

各科目においては、学習の到達目標を明示し、基本的知識と基本的技術を教授すると共に、自学自習を促して高い問題解決能力を育成します。また、科学と情報技術の進歩に対応しそれらを活用できるように、生涯にわたって知的向上を目指す能力を培います。

さらに、患者中心のチーム医療の本質を理解し、その実行に必要なコミュニケーション能力、将来の医療・教育現場での指導能力を培うよう指導すると共に、国際的に活躍できる能力を養うことを目指しています。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html）

（概要）

学士課程において、「医療人としての適切な判断力・行動力」、「コミュニケーション能力」、「問題解決・自己研鑽能力」、「知識を統合し活用する能力」、「臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）」、「研究への志向力」、「グローバル化への志向力」、「地域医療への志向力」の能力を身につけた者に学位「医学士」を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html）

（概要）

年間の一貫教育を通じ、医の倫理やプロフェッショナリズム及び医師になるために必要な知識、技能、態度を身につけます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html）

（概要）

医学部医学科では、以下のような能力を身につけてきた学生を求めています。

1. 高等学校で履修する英語、数学、理科、社会、国語において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの知識を有している。
2. 人のために尽くそうとする明確な意志を有している。
3. 地域医療を担う意欲と使命感を有している。
4. 生命及び人に対する尊厳と倫理観及び理論的な思考力を備えている。
5. 探究心が豊かであり、未知の分野に挑戦しようとする情熱を有している。
6. 異文化や自分と異なる考えを受け入れ、広い視野で物事を判断し思考できる。
7. 自分の意見や考えをわかりやすく言葉や文章で表現できる能力を有している。
8. コミュニケーション能力に長けている。
9. 相手の気持ちを理解するとともに支持し、周囲の人々と協調性を持って行動できる。

学部等名 医学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/med_menu/med_menu100.html ）
<p>（概要）</p> <p>広い視野と豊かな人間性を持ち、保健・医療・福祉・教育等の分野で様々な専門職と協働して活躍できる、社会のケアニーズに応え得る人材を育てることを目指します。そのため、卒業時には全員が看護師と保健師の2つの国家試験受験資格を得て、生涯にわたってキャリアを広げていけるよう、保健学と看護学を一体化した統合カリキュラムによる教育を基盤としています。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた全人的ケアリングを提供できる実践力。 2. 科学的探究心に基づき、論理的に問題を解決する能力。 3. 高いモチベーションを持ち、生涯にわたって主体的に学習に取り組む能力。 4. 広く国際的視点に立ち、最新の科学的知見を活用する能力。 5. ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した援助を提供する看護実践能力。 6. 対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と協働できる能力。 7. 超高齢化、過疎化、医療の偏在化等の進展する地域固有の健康問題に対応した看護活動を展開する能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様で複雑な健康問題に対応できる人材、将来、地域の看護をリードでき得る人材を育成する必要から、いわゆる統合教育を基盤とし、看護師の国家試験受験資格に係る科目を必修としています。 2. 超高齢化、過疎化、医療の偏在化等の進展する地域固有の健康問題に対応した事業を施策化できる人材を育成するため、選択制で保健師の国家試験受験資格を得ることのできる課程を設けています。 3. 保健・医療と連携・協働できる養護教諭を育成するため、選択制で、養護教諭1種免許を取得できる課程を設けています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/igakubu.html ）
<p>（概要）</p> <p>将来、社会の人々の命と生活を支える自律した看護専門職を志望する、次のような学生を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学ぶ上で必要な基礎的学力と主体的学習態度を身につけている人 2. 他者に関心を持ち、人間を尊重し、ささえ合い、ともに歩むことのできる人間性豊かな人 3. 知的探究心にあふれ、主体的かつ論理的に問題解決を図ろうとする人 4. 志を高く持ち、夢の実現に向けて弛まぬ努力のできる人 5. 保健・医療に関心があり、将来看護に貢献したいと考えている人

学部等名 総合理工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/science_menu/science_menu01.html ）
<p>（概要）</p> <p>専門的基礎学力と総合的視野をもった活力ある人材の育成 特色ある国際的水準の研究の推進 国際交流の推進 地域をはじめとする社会貢献の推進 効率的・効果的で透明性のある学部運営の推進</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/sougourikougakubu.html ）
<p>（概要）</p> <p>総合理工学部では、学士課程において以下に掲げる知識・能力を身につけた者に学位「総合理工学」を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. （豊かな教養や倫理観） 豊かな教養や倫理観を持ち、人類社会や地球環境とのかかわりについて総合的に考え、判断できる。 2. （リテラシー・コンピテンシー） 情報収集力、判断力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際的視野を身につけ、社会に貢献し、活躍できる。 3. （専門的能力） 理工学の専門分野に関する基礎力及び応用力を持ち、理工融合的、総合的視野から分析力、解決力、創造力を発展的に発揮できる。 4. （社会の発展に寄与する能力） 地域の文化・伝統を理解し、地域あるいは世界に及ぶ課題を、理工学の専門知識を用いて、解決に努め、社会の発展に寄与する能力を身につけている。 5. （主体性） 修得した専門知識・技術を更に高め、継続して、主体的に学ぶ態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/sougourikougakubu.html ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の編成の方針 総合理工学部には、社会の多様なニーズに応えられるよう、7学科、21教育コースがあり、それぞれのコースに、卒業までに修得すべき学習到達目標が定められ人材育成が行われます。 全ての学科において、教育課程は全学共通教育と専門教育からなり、以下のように体系的に構成されています。 主として1, 2年次に履修する全学共通教育では基礎科目群、教養育成科目群を学修し、豊かな教養や倫理観に加え、情報収集力、コミュニケーション能力など社会に貢献し、活躍するためのリテラシーを身につけます。 全ての学科教育コースの専門教育では主として1年次に基盤科目、自然科学系学部共通科目を履修し、理工学の専門分野に関する基礎力と自然科学全般に関する幅広い知識と総合的視野を身につけます。また、各学科の基盤科目には、専門を学ぶための導入科目として、初年次教育科目を設けています。更に学科毎に編成された専門科目群には講義形式の科目の他に、「実験」、「実習」、「演習」の科目が数多く設けられており、これらを学修することにより理工学の専門知識、応

<p>用力を身につけます。</p> <p>2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針 全ての学科教育コースの専門教育科目には、講義形式の科目の他に「実験」「実習」「演習」の科目を数多く設け、実験装置、器具や薬品を用いたり、フィールドワークを行ったりすることにより、実践力を養うとともに、グループで行う内容も多く含まれており、チームワーク力が身につきます。また、反転授業やその他の能動的授業の推進や大学院生による TA 制度を充実させることで、主体的学習能力が身につくように工夫されています。</p> <p>3. 学習成果の評価の方針 カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果は、シラバスに記載された基準に基づき、試験、レポート、授業中の活動への参加状況等により総合的に評価します。とくに卒業研究・卒業論文の成果は、各学科での卒業研究発表会あるいは卒業論文において発表され、単位認定のための審査は、複数の教員により厳正に行われます。 ディプロマ・ポリシーに掲げる教育成果の達成状況は、GPAや各学科・コースで定められた卒業要件単位の修得状況により判断します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/sougourikougakubu.html）</p> <p>（概要） 「高等学校卒業水準の基礎学力を備えている」を共通とした「求める学生像」を学科毎に定めている。また、一般入試（前期日程・後期日程）では「基礎的知識と思考力を重視」、総合型選抜 I では「知的な好奇心・探求心を重視し、学力の3要素を総合的に評価する」等、学科毎、入試区分ごとに入学者選抜の基本方針を定めている。</p>
<p>学部等名 材料エネルギー学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/material_menu/zaiene_menu01.html）</p> <p>（概要） 本学部では世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材や材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/zaiene.html）</p> <p>（概要） 材料エネルギー学部では、学士課程において以下に掲げる能力を身に付けた者に学位「工学」を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な社会の形成に関する現実課題を理解し、材料工学分野の知識・技能を身につけ新材料の研究開発を先導することができる。 2. 情報収集・データ活用技術を習得し、専門領域に応用することができる。 3. 国際的な動向を認知し、広い視野、教養と協調性により、多様な人とコミュニケーションを取ることができる。 4. 目標となる未来社会をデザインし、創造的に解決策を見出すことができる。 社会動向を見極め、修得した知識・技術を地域社会で実践できる。

教育課程の編成及び実施 に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/zaiene.html）

（概要）

専門教育科目では、以下のように科目を配置する。

1. エネルギー問題に関する基本的な知識の習得と同問題への関心を高め、材料を学ぶ上で必要な基礎科学の知識を修得する科目を配置し、実用材料の現状と課題を知り、材料が社会において果たす役割を理解する。年次進行に合わせ、新材料の研究開発に必要となる先端金属材料、バイオマテリアル、ナノ・機能性材料の専門知識を身に付ける科目を配置する。
2. 材料工学を深化させるツールを修得するため、マテリアルズ・インフォマティクスに資するデータサイエンスの活用方法及びデータ処理技術を修得し、機械学習による計算科学におけるデータ活用について理解するための科目を配置する。
3. グローバルな感性を養い専門性を高めるための海外大学と連携の上、材料工学に関する専門英語の読解力や記述力、コミュニケーション能力を養う科目を配置する。
4. 課題の本質がどこにあるかを解析し、その課題を解決するために必要となる知識を見出し、学ぶ動機付けを与える科目を配置する。また、地域の特徴でもある材料分野における産業振興に向け、研究成果を社会実装し、社会課題の解決を目指すデザイン力を身につける科目を配置する。
5. 企業ニーズを踏まえた主体的な学びを促すため、新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り、企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習、インターンシップを配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/zaiene.html）

（概要）

材料エネルギー学部が求める人物像は以下のとおり。

1. 新しい技術に関心があり、材料科学分野の知識・技術を実社会に役立てる意欲のある人
2. 実験やデータ解析を検証することで課題解決の糸口を考えようとする人
3. グローバルな視野をもって多様な人と協働して学ぶ意欲のある人
4. 社会の動向にアンテナを張り、新しいことに自分からチャレンジする人
5. 地域の関連産業の発展やエネルギー問題の解決に貢献したい人

学部等名 生物資源科学部

教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/agri_menu/agri_menu01.html）

（概要）

本学部が担うべき社会的責任に対応する「生命」、「生産」、「環境」に焦点を当て、これら3分野をより明確にした「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科により、生命科学、農林生産、食料、農業経営・経済、生態環境に関する幅広い知識と生物資源を有効に活用できる技術や知識、さらに生態環境を総合的に保全・管理するための知識と技術を有し、国際的視野に立って、これらを活用した産業・地方自治体に貢献できる人材を育成します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/seibutsusigenkagakubu.html）

（概要）

生物資源科学部では、学士課程において以下に掲げる能力を身に付けた者に学位「生物資源科学」を授与する。

人間・社会・自然に関する幅広い教養を身につけている。

理学や農学に関わる基礎的な知識を身につけている。

研究の一環として、英語科学論文の内容を理解することができる。

多角的な視点、批判的思考力を備え、各専門分野における課題の解決に主体的に取り組むことができる。

研究の一環として、必要なデータを収集・整理し、それらを解析して結論を論理的に導くことができる。

得られた研究成果を文章や口頭で適切に表現することができる。

社会で活かすことができる専門知識や技能を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/seibutsusigenkagakubu.html）

（概要）

生物資源科学部の教育課程は、「全学共通教育科目（基礎科目・教養育成科目）」と「専門教育科目（基盤科目・自然科学系学部共通科目・専攻科目）」および「自由科目」で編成されています。学科ごとにカリキュラム・ポリシーを定めており、幅広い教養と社会で活かすことができる専門知識や技能を身につけることを目的としたそれぞれの学科・教育コースで定められたカリキュラムにそって履修します。

1年次～2年次では、主として「全学共通教育科目」を履修します。1年次の前後期には、「初年次教育科目」が設けられています。

2年次以降はそれぞれの学科に設置された4つの教育コースに所属し、「専攻科目」を履修します。「専攻科目」は、各専門分野におけるより高度な専門知識・技能を修得するとともに、批判的思考力や問題の発見・解決能力を涵養することを目的として開講され、教育コース毎に講義、演習、実験、実習を体系的に組み合わせて実施します。実験や実習系の授業群の中には、島根大学松江キャンパス内の実験圃場・動物舎に加えて、附属生物資源教育研究センター、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門、エスチュアリー研究センター、島根県内の農村などと連携した多様なフィールド教育・実験実習科目があり、地域の恵まれた環境を生かして、生物・生命・農林業生産・環境調和型社会に関する諸問題を総合的に捉え、解決する力を養います。

4年次には、「卒業研究」を履修します。教育コースの教員から個別指導を受け、自らが研究課題を定めて、得られたデータを適切に分析・考察し成果を取りまとめ、卒業研究を完成させます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/diploma.html/seibutsusigenkagakubu.html）

（概要）

学科毎に求める学生像，入学者選抜の基本方針，各選抜方法における求める力（評価する力）をアドミッション・ポリシーとして定め，大学のホームページ及び入試要項等において公表している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
法文学部	—	21人	24人	9人	0人	0人	54人
教育学部	—	24人	18人	12人	3人	0人	57人
人間科学部	—	8人	10人	6人	2人	0人	26人
医学部	—	48人	24人	15人	71人	4人	162人
総合理工学部	—	38人	32人	8人	31人	1人	110人
生物資源科学部	—	30人	33人	1人	22人	0人	86人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			147人				147人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.staffsearch.shimane-u.ac.jp/kenkyu					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法文学部	175人	183人	104.6%	750人	812人	108.3%	10人	11人
教育学部	130人	140人	107.7%	520人	575人	110.6%	—	—
人間科学部	80人	82人	102.5%	320人	348人	108.8%	—	—
医学部	162人	162人	100.0%	892人	905人	101.5%	10人	10人
総合理工学部	370人	379人	102.4%	1,594人	1,723人	108.1%	12人	20人
材料エネルギー学部	80人	86人	107.5%	80人	86人	107.5%	—	—
生物資源科学部	200人	204人	102.0%	830人	877人	105.7%	15人	15人
合計	1,197人	1,236人	103.3%	4,986人	5,326人	106.8%	47人	56人
(備考) (c) (d) には編入学者を含む。 医学部は2年次、3年次編入学の合計値を計上。 材料エネルギー学部は令和5年度新設。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法文学部	191人 (100%)	7人 (3.7%)	158人 (82.7%)	26人 (13.6%)
教育学部	129人 (100%)	10人 (7.9%)	113人 (89.7%)	3人 (2.4%)
人間科学部	74人 (100%)	7人 (9.5%)	57人 (77.0%)	10人 (13.5%)
医学部	184人 (100%)	5人 (2.7%)	50人 (27.2%)	129人 (70.1%)
総合理工学部	389人 (100%)	135人 (34.8%)	231人 (59.5%)	22人 (5.7%)
生物資源科学部	208人 (100%)	74人 (35.6%)	115人 (55.3%)	19人 (9.1%)
合計	1,175人 (100%)	238人 (20.3%)	724人 (61.8%)	209人 (17.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (主な進学先) 島根大学大学院, 北海道大学大学院, 東北大学大学院, 名古屋大学大学院, 京都大学大学院, 神戸大学大学院, 岡山大学大学院, 広島大学大学院, 九州大学大学院, 同志社大学法科大学院 など (主な就職先) JA 全農, JR 西日本, JTB, YKK AP, あなぶき興産, 関西電力, キョーリン製菓, 積水ハウス, ダイハツ工業, 大和ハウス工業, タカラスタンダード, 長谷工グループ, パソナグループ, 富士薬品, 三井住友海上火災保険, 三菱自動車工業, 三菱電機, 明治安田生命保険, ゆうちょ銀行, 厚生労働省, 国税庁, 島根県職員 など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法文学部	192人 (100%)	166人 (86.5%)	17人 (8.9%)	7人 (3.6%)	2人 (1.0%)
教育学部	135人 (100%)	120人 (88.9%)	12人 (8.9%)	3人 (2.2%)	0人 (0%)
人間科学部	82人 (100%)	71人 (86.6%)	10人 (12.2%)	1人 (1.2%)	0人 (0%)
医学部	162人 (100%)	150人 (92.6%)	8人 (4.9%)	4人 (2%)	0人 (0%)
総合理工学部	418人 (100%)	346人 (82.8%)	40人 (9.6%)	29人 (6.9%)	3人 (0.7%)
生物資源科学部	208人 (100%)	183人 (88.0%)	20人 (9.6%)	4人 (1.9%)	1人 (0.5%)
合計	1,197人 (100%)	1,036人 (86.5%)	107人 (8.9%)	48人 (4.0%)	6人 (0.5%)
(備考) <ul style="list-style-type: none"> 医学部については、2019年4月の1年次医学部看護学科入学者及び2017年4月の1年次医学部医学科入学者の合計数で計上。 総合理工学部から人間科学部に1名転学部した学生がいるので、総合理工学部から入学者数1名を減らし、人間科学部に入学者数1名増やしている。 2023年4月現在で在学している者を「留年者数」として計上。 除籍者を「その他」に計上。 					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 本学の授業シラバスについて、毎年1月から3月中旬の間で、担当教員が作成し、3月中旬以降公表している。なお、開講授業についてはウェブシラバスとして、大学内外から閲覧可能である。その項目については、授業の目標や計画、成績評価方法を含め、学生が準備学修を進めるために必要な項目が設定されている。
 また、シラバスの作成にあたっては、次年度のシラバス登録開始前に「学生の学びの質を高めるために—シラバスから始まる授業改善—」を全教員に周知し、シラバスの各項目についてどのような記述をすべきか、FDの観点から指導を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 学務情報システムのデータを利用し、成績の分布状況の把握をはじめ、修学指導に係る分析を行っている。また、学生が学修状況をより客観的に把握し、教員が学修指導をよりきめ細やかに行うため GPA 制度を導入しており、学生及び指導教員は学務情報システムにアクセスすることにより GPA が確認できます。履修登録した科目毎の5段階評価を、(秀=4・優=3・良=2・可=1・不可=0)の4から0までの点数(GP: Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を評価を受けた単位数の合計で割った平均点を GPA としている。
 卒業については、島根大学学則において在学すべき年数以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し修了した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する旨を定めている。
 学位授与方針で定める能力・資質については、教育課程の編成方針に反映され、カリキュラムとして体现されている。カリキュラムを通じた学習成果である卒業の認定について、その基準については、各学部規則に規定し、学生に基準を記載した「履修の手引」を配布するとともに、オリエンテーションや窓口等での学生相談などの場で成績評価及び卒業認定の基準に関する説明を適宜行っている。各学部で所定の教育課程を履修(修了)した者に対しては、単位認定・卒業認定のための卒業認定会議及び教授会を開催し、その議を経て学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法文学部	法経学科	132 単位	①・無	25 単位
	社会文化学科	128 単位	①・無	25 単位
	言語文化学科	128 単位	①・無	25 単位
教育学部	学校教育課程	134 単位	①・無	28 単位
人間科学部	人間科学科	130 単位	①・無	令和2年度以前入学生 24 単位 令和3年度以降入学生 28 単位
医学部	医学科	41.2 単位 及び5,389時間	①・無	1年次各期選択必修及び 選択科目: 14 単位
	看護学科	125 単位	①・無	1年次各期: 30 単位
総合理工学部	物理工学科	124 単位	①・無	26 単位
	物質化学科	124 単位	①・無	25 単位

	地球科学科	124 単位	⑦・無	1 年次前期, 3 年次及び 4 年次各期: 25 単位 1 年次後期及び 2 年次各期: 30 単位
	数理科学科	124 単位	⑦・無	1 年次各期: 30 単位 2 年次以降各期: 25 単位
	知能情報デザイン学科	124 単位	⑦・無	1 年次各期: 30 単位 2 年次以降各期: 25 単位
	機械・電気電子工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	建築デザイン学科	124 単位	⑦・無	1 年次各期: 28 単位 2 年次及び 3 年次各期: 30 単位 4 年次各期: 24 単位
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	124 単位	⑦・無	25 単位
生物資源科学部	生命科学科	128 単位	⑦・無	28 単位
	農林生産学科	128 単位	⑦・無	28 単位
	環境共生科学科	128 単位	⑦・無	28 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/intra/eduinfosys/eduinfosys_student.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/chiiki/sotugyosei/sotsugyou_chousa		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html
<https://www.shimane-u.ac.jp/campus-life/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部・全学科共通		535, 800 円	282, 000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりに応じたきめ細かい学生相談、就職相談、修学支援を実施している。経済的に修学困難な学生については、授業料免除制度、各種奨学金制度、授業料等奨学融資制度を整えている。また、学生生活に必要な施設や課外活動施設を整えている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別のキャリア相談のほか、学年毎に開催されるキャリアガイダンスにおいて学生自身が自分の道筋を見つけ、就職・大学院進学も含めた目的・目標を持って学生生活を送れるような支援をしている。インターンシップなど、社会の中で体験的・実践的に学ぶプログラム等も用意している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活を健康で楽しく過ごせるように、専門の医師やカウンセラー（臨床心理士）が、学生の様々な悩みごとや相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html
